

災害時における要配慮者のために

災害時における要配慮者の方々を災害から守るために、地域で協力し合いながら、支援していきましょう。まずは、声をかけることが大切です。

高齢者・寝たきりの方のために

- 緊急の時は、おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。



車いすをご利用の方のために

- 階段では、2人以上の協力が必要で、上がりは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。



目の不自由な方のために

- 緊急の時には、声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合には、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽くもってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



耳が不自由な方のために

- 話す時は、口の開け方をハッキリと、相手に分かりやすいようにする。手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



避難場所での3つのマナー

避難場所には家と違ってたくさんの人たちが集まります。勝手な行動をしたり、まわりに迷惑をかけるようなことはやめましょう。

1 ゆずりあい

避難場所は限られたスペースしかありません。ケガをしている人や体の不自由な人たちなどには場所をゆずりあいましょう。また、トイレの順番などもゆずりあいましょう。



みんなが不安なときを過ごす場所なのでお互いに協力し合って過ごしましょう。

2 たすけあい

ケガをしている人や体の不自由な人、また病気の人なども避難所には集まります。健康で元気な人たちが先頭になって、みんなが快適に過ごせるようにたすけあいましょう。



3 おもいやり

大きな声を出したり、走り回ったりすると、まわりの人たちの迷惑になります。お互いに思いやる気持ちをもって、避難所では過ごしましょう。

